三笠霊苑第一一〇回春季彼岸大法要御案内

春季彼岸大法要のご案内

早春の候、皆様におかれましては
益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

本年度も春季彼岸大法要を開催させて頂きます。

このたびの新型コロナウイルス感染症により、お亡くなりになられた国内外の多くの方々に謹んで哀悼の意を表しますとともに、罹患（りかん）されている皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

また、この状況下で、感染リスクにさらされる中、治療・対策にあたられている医師、看護師をはじめとする医療従事者の方々、私たちの生活を支えてくださっているすべての方々に、深く敬意と感謝を表します。

三笠霊苑といたしまして、先の対応策を講じさせていただきます。

何かとご不便をおかけいたしますが、皆様のご理解・ご協力をお願い申し上げますとともに、一刻も早い事態の収束と、皆様のご健康を心よりご祈念申し上げます。

《対応策》

・大法要開催時には皆様の本堂への入堂はご遠慮頂き、ご寺院様と職員のみで執り行わせて頂きます。

・入り口付近にお焼香台をご用意させて頂きます。

大法要式次第

日時　令和四年三月二十一日（月・祝日）
春分の日（彼岸中日）

受付　午前九時三十分より午後二時迄

第一回法要　午前十時より（本堂にて）
各宗派御寺院様による
（1）各家御先祖
戦没者
交通事故犠牲者
阪神大震災犠牲者
東日本大震災犠牲者
合同諸霊大供養
（2）各宗派僧侶による経木大供養
（3）式終了後直ちに各家墓前にて読経御回向

第二回法要　午後二時より（本堂にて）

※大法要当日は霊苑入り口の受付テントで各御宗派の色別の旗をご用意致しております。その旗を各家墓前に差して置いて頂ければ、読経御回向をさせて頂いております。

ご参拝はそちらからお願い致します。

・大法要開催の模様を苑内放送にてお伝えさせて頂きます。

※霊苑では、政府、自治体、関係諸機関等から示される正確な情報の収集に努めます。
感染拡大状況によっては、感染防止に細心の注意を払い、大法要へ皆様のご参列をご案内させていただく場合がございます。

各種回向の御案内

経木回向　……一霊につき　五〇〇円
本堂にて霊苑住職が経木を読み上げ、ご先祖様を供養致します。
経木回向をお申込みの御方様は、同封の経木申込み用紙にご記入頂き、ご持参頂くか、事前に郵送かＦＡＸでお申込み下さい。尚、期間中は受付にも用紙をご用意致しておりますので、ご来苑時にお申込み頂いても構いません。

灯明回向　……一件につき　一〇〇〇円
ご寄進頂いております参道灯籠にロウソクで灯りを点し、ご先祖様を供養致します。ご希望の御方様は受付にてお申込み下さい。

墓前回向　……一件につき　三〇〇〇円
各ご尊家の墓前にて霊苑住職が読経し、ご先祖様を供養致します。ご希望の御方様は受付にてお申込み下さい。

※この御案内は、墓地ご契約本人様にご送付申し上げております。大法要の日取り、霊苑送迎バスの次第を、ご兄弟・ご親戚或いは、ご縁者様へお知らせ頂ければ幸いです。

彼岸への道

三笠霊苑
住職　三谷真連

釈迦の入滅数百年後には、仏教の僧によって釈迦生誕の地とされるカピラヴァストゥや、ルンビニ地域への巡礼が行われるようになっていたことが知られています。

有名な僧では三蔵法師（玄奘三蔵）などもカピラバストゥに巡礼で訪れ、それを文書に残しました。

しかしやがて同地域で仏教にかわってヒンドゥー教やイスラム教が信仰されるようになった結果、仏僧による巡礼も途絶えるようになり衰微。中国を経由して日本に伝来した仏教は、日本古来の山岳信仰に仏教、神道、道教などが重なって修験道が興ります。山の霊

力を受けもって山中で極限までの練行、苦行を行うことで、行者として呪力を高め、人びとの現世利益の願いをかなえるのです。そして、死者の遺骨や遺髪を預かって山中に納めに行いました。

平安時代後期以降の浄土信仰の広がりのもと、本宮の主神（しゅしん）の家都美御子神（クマノケツミミコノオオカミ）は阿弥陀如来、新宮の速玉神（クマノハヤタマノオオカミ）は薬師如来、那智の牟須美神（ナチノムスムミノオオカミ）は千手観音を本地（本体）とするとされ、本宮は西方極楽浄土、新宮は東方浄瑠璃浄土、那智は南方補陀落（ふだらく）浄土の地であると考えられ、熊野全体が浄土の地であるとみなされるようになりました。人々は生きながら浄土に生まれ変わることを目指して熊野を詣でたのです。

熊野信仰以外にも西国三十三カ所は観音霊場。一番札所那智山を始めに機内の巡拝が終わると満願の御礼参りに善光寺へ参拝。

四国八十八箇所が確立したのは江戸時代といわれていますが、平安末期に成立したという今昔物語にも「今は昔、仏の道を行ひける僧三人伴ひて、四国の辺地と云うは伊予、讃岐、阿波、土佐の海辺の廻りなり」という記述があることから、八百年程前にはすでに四国を巡礼する修行僧がいたと推測されます。

とは言っても、江戸時代までの巡拝者は、山伏や聖等修行を目的に移動するプロの僧集団でありました。

江戸時代になり戦が無く太平な時代になると、陸路は東海道他の街道や宿場町が拡がり、航路は北前船が始まると上方から江戸への物流が盛んになり江戸の町が発展すると次第に人の動きも活発になりました。

日本各地の霊場でもお伊勢参り・富士山登拝・江ノ島参りは人気があり、江戸時代には各地に関所や口留番所が設置され、人の移動は厳格に制限されたのです。

原則として庶民が関所を通過するには身元証明書となる通行手形が必要だったのですが、参詣や湯治などの場合は制限が緩和されていたようです。

碓氷関所の通行規定では、善光寺の参詣や草津温泉の湯治の場合は、往きで参詣や湯治の記載をしてもらえば、帰りはその手形を差し出して通行することができ、またキリシタンではないことの証明にも利用されていました。

巡礼・巡拝の旅には路銀が必要で、各地に講が出来ました。講の代表者が巡礼を終えて村に戻ると生き神、生き仏のように歓待されるのです。

四国遍路では、路銀が無くても御接待受け巡拝する独特の文化がある。更に各地の講が四国へ御接待の為に食料品など送られていたのです。

今で言うホームレスの人々が偽遍路として四国に渡り、冬場は暖国の土佐で過ごし春に伊予、讃岐・阿波と回り冬には土佐へ移動する者が横行、土佐藩では偽遍路の流入を防ぐ為に遍路禁止令を出す事となりました。

一九八二年（明治五年）に入ると廃仏毀釈・神仏分離令により修験道の廃止、寺が破壊される法難の時代に入ります。暫くは戦争があり戦後の復興まで参拝者も皆無の状態となったのです。

一九六四年頃国内は高度成長期に入り新幹線が走り高速道路の開通により庶民は西へ東へと巡礼や観光で参拝者は一気に増え各地に新たな霊場が始まり門前町も賑わいます。

四国遍路に於いても近代に入り、より大衆化されることとなります。特に、一九八八年に開通した瀬戸大橋の影響は大きく、航路以外に四国外から大型バスで団体客が訪れるなど、四国遍路の大規模観光化が進みました。

また、交通手段が発達したことで、車を使った「歩かないお遍路さん」が多勢を占めるようになりますが、その一方で、自身の救済や供養を目的として歩みを進める「歩き遍路」の姿も依然として残るなど、四国遍路の意義とスタイルの多様化が進んでいったのもこの頃です。

・発心の道場・阿波（二十三ヶ寺）

発心とは信仰の道に入る心を起こすこと。特に、仏教で、菩提心を発すること。仏の悟りを得ようとする心を起こすこと。仏道に入ること。出家すること。発菩提心。の意味です。

・修行の道場・土佐（十六ヶ寺）

悟りを求めて精神性を高める修行。

・菩提の道場・伊予（二十六ヶ寺）

菩提とは煩悩を断ち切って悟りの境地に達すること。また、悟りの智恵。

・涅槃の道場・讃岐（二十三ヶ寺）

涅槃とは智慧（ちえ）を磨き修行を積んで、迷いや煩悩や執着を断ち切り、悟りに到達して、いっさいの苦・束縛・輪廻から解放された最高の境地をいいます。

満願の御礼参りは高野山奥之院へ参拝。

四国各四県に巡拝道場の名前が付けられ、八十八ヶ所満願で人生観が変わると言われています。

「心の時代」といわれる今、何かを悟り、新たな境地が開ける。私たちを導くのは自分次第です。

合　掌

ご挨拶

皆様に如何お過ごしでしょうか？花の便りも届き、ことしも三寒四温、水ぬるむ春の季節がやって参りました。

昨今はもうコロナの事で埋めつくされた世相となり、まぁこんな時もあるさ、と達観する向きもあろう、いやいや、進学等に絡んで一生に一つの大切な体験を奪われた若い人にとってなら、世界大戦や大地震に匹敵するような奪われた時間となった場合もあるかと考えたりします。

我が老母も、外出を控える日々でめっきり脚が衰えてしまいましたが、毎朝夕の神饌撤饌へと二階の神殿に登り降りが幸いしたのか、先日もワクチン接種三回目へと会場までコロコロと結構軽快に参加してくれました。

しかしあれも出来ず、これも延期。と心の安らぎとは程遠い毎日を日送りするしか無いのも確かです。

もうはや二年外に出てないと言う話を聞く事にすらなっています。

ワクチンを、子供を除くほぼ八割の方が打っておられる昨今。けっして絶望的な感覚では無いのでしょうが、新しい株が流行る毎に、感染しない訳でも無くなってしまいました。

それでもまだ累積感染率は四％以下

つまり去年も申し上げた通り、既に我々は基本は出来ていると言う事でしょう。楽しくは無いですが。

やはり基本は押さえて、必要以上にしてはいけない事を増やさなくて結構かと存じます。

般若心経では能除一切苦とおっしゃっています。故説般若波羅蜜多呪さあその真言とはこうです。

「ガテー　ガテー　パーラガテー　パーラサンガテー　ボーディ　スヴァーハー」

智慧よ、智慧よ、完全なる智慧よ、完成された完全なる智慧よ、悟りよ、幸あれ

この世の全ての苦しみも知恵の完成の悟りと繋がっているそうですから。

お参りもご回向も当苑でも、ぐっと減って居られますが、既に救われて居ると想う心を感じて、世相が収まりましたらどうぞお越しください。お墓は換気だけは最高ですので。

皆さまの向後の安寧を強く念じて　　合　掌

苑主　西本隆一　拝

お墓の始まり

お墓参りされた時、昔からお祀りされている古いお墓を見かけられることが、お有りになると思います。

そんな時、お墓っていつ頃から在るのだろうと思われたことは有りませんか？そもそもお墓ってなぜ建てるのか？

お墓って何と聞かれたら御石塔や石碑を建てて、そこに亡くなられた方の御遺骨を埋葬祭祀し葬る場所とお答えになられる方もお有りになると思います。

実は、お墓を建てなければならないと法律で決まっているわけではありません。（御遺骨の埋葬については、墓地埋葬に関する法律で定められています。）

と言う事は、お墓を建てるというのは、人々が昔から行ってきた葬送の考え方がお墓という形で現わされて今のお墓となったのではないでしょうか。

世界中ですべての人がお墓を建てているわけではありません。遺骸を川に流したり、鳥に食べさせたりして遺骸を自然に還す民族もあります。日本においては、縄文時代の遺跡から遺骸を埋葬したお墓が副葬品と共に見つかっています。縄文時代にはすでに日本においては遺骸を埋葬して葬っていました。

弥生時代になると、稲作が盛んになり人々は定住するようになり集落が形成され、集落のはずれに墓地（埋葬地）を作り遺骸を埋葬していた痕跡があります。

時代が進むと、権力者が現れ古墳時代といわれるように大きなお墓（古墳）が出現します。さらに時代が進み飛鳥時代になると仏教が伝来します。この時火葬の風習も伝わったとされています。しかし、このころに火葬をされる人は貴族などの上流階級の人で、庶民の葬送は土葬がほとんどでした。

平安時代になると・僧源信によって記された「往生要集」で浄土教の観点から死後の世界が記され、追善供養の必要性が説かれました。その影響で上流階級の間で卒塔婆を建てるようになってきました。

鎌倉時代になると、武家に仏教が浸透していきます。この頃になると色んな仏教の宗派が登場して庶民の間にも仏教が広がり始めました。この頃の庶民は葬送を仏式で行っていたようですが、埋葬は従来のように土葬でした。

埋葬地は、自分たちの生活圏から離れた場所を死者の住む場所と定めて、埋葬個所の上に石の柱を立てるようになりました。離れた場所とは村の外れなどの事です。

江戸時代になると武士のお墓は階級により卒塔婆（板塔婆）や石塔婆が建立されるようになります。

石塔婆は現在のお墓の原型だと言われています。

この頃「檀家制度」が定められてきます。檀家となっている家の葬祭供養をそのお寺「檀家寺」だけが行えるという約束を交わした関係です。お寺は、いわば今でいう市役所のような役割も果たしていたようです。庶民の葬送は従来のとおり土葬が多かったようです。明治時代になると廃仏毀釈などにより檀家制度は法律上の根拠が無くなったのですが「檀家制度」の家とお寺の関係は残りました。

また、この頃日本の人口が急増して都市部に於いて埋葬墓地の不足が深刻化してきます。そんな中、明治七年に初めて東京に公営墓地が設けられます。これまでのお墓は、個人単位で埋葬するのが基本的な形でしたが、人口の急増に伴い埋葬地が不足してきました。この時期に長男が家督を相続する家長制度が定められます。

この影響で〇〇家之墓という形のお墓が出来てきました。

大正、昭和の初期には、特に都市部で埋葬地の不足が深刻化してきます。そして土葬から火葬への移行が進み土葬を禁止するところも出てきました。現在では、一部の地域を除くほとんどの地域で火葬が実施されています。

今、私たちが思い浮かべるお墓の形「〇〇家之墓」が一般的なものとなりました。しかし、時代の変化に伴いお墓の形も変わっています。散骨や樹木葬、永代供養墓、納骨堂、室内墓地など種々のお墓が提案せれていますが、お墓とは亡くなられた方を想い、遺骸を自然に還すところではないでしょうか。

合　掌

三笠霊苑
国際教化教会
〒六三〇―八二〇二
奈良市川上町六〇一番地
電話（〇七四）二二―二九一一
FAX（〇七四）二二―七一七一
http://www.mikasareien.jp

送迎バスについて（無料）

送迎バス運行日（奈良交通バス運行）

三月二十一日（月・祝日・春分の日）

（朝九時～夕三時迄・霊苑発最終四時半）

毎時

ＪＲ奈良駅前　〇分、二〇分、四〇分頃発

近鉄奈良駅前　五分、二五分、四五分頃発

霊　　苑　〇分、二〇分、四〇分頃発

※混雑時の遅延はご容赦下さい。

のりば・おりば、は案内地図をご覧下さい。

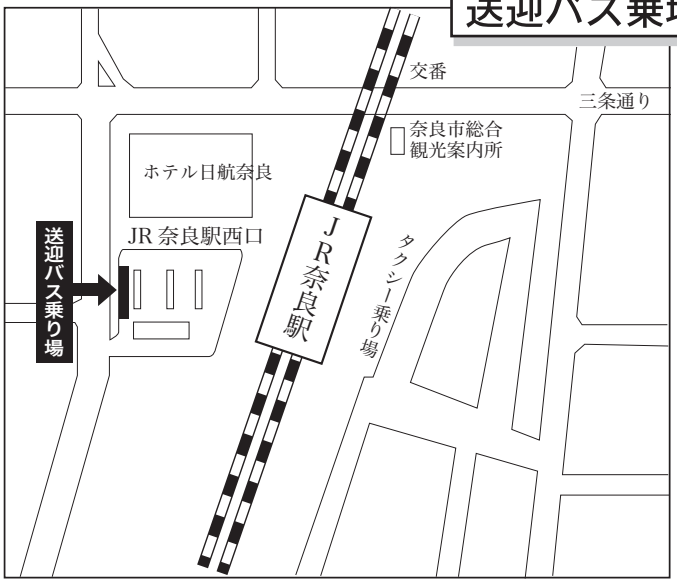
送迎バス運行時刻表

	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時
近鉄駅前発	05分 25分 45分	05分 25分 45分	05分 25分 45分	05分 25分 45分	05分 25分 45分	05分 25分 45分	05分	

	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時
ＪＲ駅前発	0分 20分 40分	0分 20分 40分	0分 20分 40分	0分 20分 40分	0分 20分 40分	0分 20分 40分	0分	

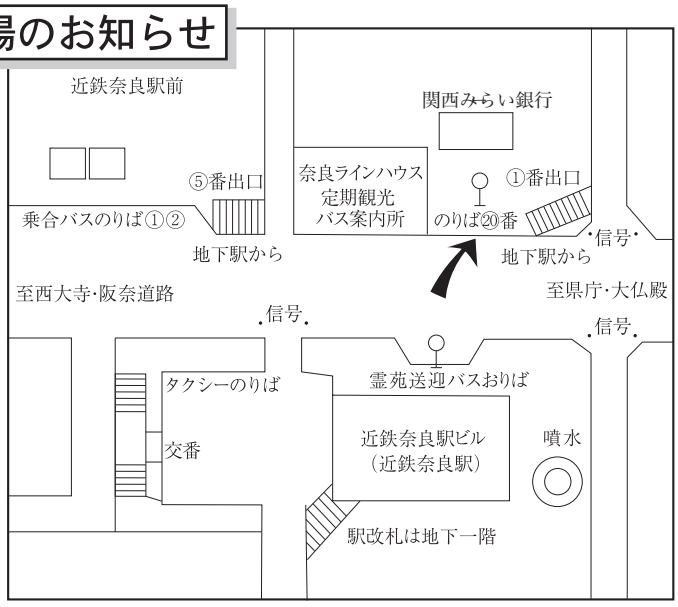
	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時
三笠霊苑発		0分 20分 40分	0分 20分 40分	0分 20分 40分	0分 20分 40分	0分 20分 40分	0分 20分 40分	05分 30分

送迎バス乗場のお知らせ



ＪＲ奈良駅西口より発車

※乗り場をご確認下さい。



近鉄奈良駅①⑤号地下出口から上がって、「関西みらい銀行」前

奈良交通バスのりば⑳番（リムジンバス　乗合バス乗場）

無料苑内車のご案内

苑内車運行日（近鉄タクシー運行）

三月十九日・二十日・二十一日の三日間

（午前九時より午後四時まで）

新型コロナウイルスの感染拡大防止に関する三笠霊苑の対応について

苑内車ご利用のみなさまへお願い

・マスクの着用をお願い致します。
・アルコールによる手指消毒にご協力下さい。
・ご家族単位でのご乗車にご協力下さい。
・苑内車をお待ち頂く場合は、密にならないよう間隔をあけてお並びください。
・咳エチケットの励行をお願い致します。
・発熱等の症状がある方はご参拝をお控えください。

皆様のご協力をお願い申し上げます。

参道燈籠献燈のご案内

献燈は、先祖及び有無両縁一切に対して、生者が真心を込めてその心を灯に変えて照らし清め供養するものであります。

この善の働きは一家に心の安らぎと繁栄をもたらし、子々孫々末代までの『陰徳積』になると信じます。

ご先祖様が眠る三笠霊苑参道の両側に、この大なる功徳を意味する燈籠の灯を、永代まで灯し続けて参ります。

広く皆々様にご賛同賜りますよう願っております。

献燈　永代供養志納料　六十万円